

所属	言語文化研究科中国・韓国言語文化専攻 修士課程	修了年度	平成 27 年度
氏名	石黒 みのり	指導教員 (主査)	金 河守

論文題目	韓国語教材における終助詞요の考察
------	-------------------------

本文概要
<p>本研究は、日本で出版されている韓国語教材における終助詞 yo (以下、요) を中心に考察を行うものである。</p> <p>第 1 章では、韓国語の終助詞-요니다/습니다と終助詞요の用法を概観した。-요니다/습니다の生産的観点では、平叙の用法以外では、それぞれ表現自体を変えなければならない。疑問文では-요니까/습니까、勧誘文では-시지요、命令文では-보시오となる。意味的多義性の観点では平叙文の用法しか持っていない。次に終助詞요の生産的観点は、用言-아/어/여に接続している요を除くだけで、非丁寧形にすることができる。また意味的多義性の観点では、平叙・疑問・命令・勧誘の用法を、形を変えずに使用できる。</p> <p>第 2 章ではテレビドラマ「オールイン 運命の愛」の台詞に終助詞요が、さらには終助詞요の 4 つの意味がどのように扱われているかを見た。全 24 話中最もよが多く表われた「オールイン」第 11 話の総台詞数は 265 で、そのうち-요니다/습니다が 24 に対し終助詞요の台詞だけを見ると 103 であった。この結果からよは、日常会話において-요니다/습니다よりも多く扱われていることが分かった。さらに終助詞요を用法別に見ると、平叙 69、疑問 25、勧誘 5、命令 0 のように命令以外の 3 つの用法が表れていた。</p> <p>第 3 章においては実際の韓国語教材における終助詞요を、学習のレベル別及び目的別に分けて考察を行った。なお教材は、初級の教材と中級の教材をそれぞれ 10 冊ずつ、初中級の教材を 5 冊、会話中心の教材を 5 冊の計 30 冊を選定した。また韓国語教材においては、文法記述及び対話文を対象に分析を行う。</p> <p>(1) 学習レベル別考察</p> <p>①初級</p> <p>文法中心教材では 10 冊、会話中心教材では 2 冊を分析した。文法記述においては、基本的には文法中心教材の方がよの文法記述がなされている。2 種類の説明の仕方が見られた。1 つ目は用言-아/어によを加えるもの、2 つ目は-아요/-어요のように、用言語幹にすでによがついているものとして説明しているものである。よの 4 つの意味の提示においては、平叙文と疑問文の文法記述と対話文の提示が大半であった。命令と勧誘については具体的な説明は欠けている。</p> <p>②初中級</p> <p>文法中心教材では 5 冊、会話中心教材では 1 冊を分析した。文法記述においては、文法中心及び会話中心教材のどちらも中級を見据えて次の段階を示している。次によの 4 つの意味の提示においては、基本的には平叙と疑問の提示が多いという結果であった。</p> <p>③中級</p> <p>文法中心教材では 10 冊、会話中心教材では 2 冊を分析した。文法中心教材では文法記述は省かれており、対話文での提示のみとなっていた。一方会話中心教材においては、よの丁寧体という側面の強い提示となっていた。よの 4 つの意味の提示においては、文法中心及び会話中心教材のどちらもよの全ての意味がほとんどの教材の対話文に提示がなされていた。</p>

(2) 学習目的別考察**①文法中心教材**

目的が「文法中心」にしているところからも、説明、例文、対話文と段階を踏んで展開している。また、練習問題には読みや書きの内容が多い。対話文の登場人物は、基本的に親しい間柄で構成されている。

②会話中心教材

目的が「会話中心」となっているため、対話文に㉟の意味を提示している。特に中級教材では、文法中心教材に比べると場面や人との関わりが非常に多様化している。

結論として、生産的観点及び意味的多義性を持つ㉟は、学習の初期段階から韓国語教材において提示されなければならない。初級の段階で全体像を見せるべき理由としては、学習者が学習の初期段階で日常使用されている韓国語により近づくためである。またレベルが上がるにつれ、㉟を除き非丁寧体にできることを提示することで、学習者は親疎関係の度合いによって、実際の場面で使用できる表現を増やすことが可能になる。また4つの用法においても平叙と疑問だけでなく、命令や勧誘までの㉟の用法の全体像を修得できるように指導することが重要である。